

インターネット分断化、グローバル知識コモンズ、IGFの役割

渡辺智暁

(国際大学GLOCOM／クリエイティブ・コモンズ・ジャパン)

IGF2023報告会 2023.12.26. 於: 東京／オンライン

自己紹介

本務（アカデミア）：国際大学GLOCOM（グローバル・コミュニケーション・センター）の研究者。情報社会論や情報通信政策の研究などに関与

ボランティア活動（市民セクター）：クリエイティブ・コモンズ・ジャパンのメンバー。母体であるNPO法人コモンズフィアの理事長。著作物をシェアするための汎用ライセンス「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」の日本での普及・支援などに関与

IGFへの参加は3回目。（2012年APriIGF 東京、2013年バリ、2023年京都）

最初の2回はオープンデータ関連が主

やや受動的な参加

インターネットの分断について（セッション概要）

参加したセッション：WS #405 Internet Fragmentation: Perspectives and Collaboration 知人の依頼により参加
<https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-ws-405-internet-fragmentation-perspectives-collaboration>

レポート：未掲載

文字起こし：<https://www.intgovforum.org/ar/content/igf-2023-day-3-ws-405-internet-fragmentation-perspectives-collaboration-raw>

動画：<https://www.youtube.com/watch?v=i-rHwQ6vOL8>

主な議題：

- インターネットの分断に関する多様な定義
- インターネットの分断は現に存在しているのか、増大が見込まれるのか
- インターネットの分断は常に悪いのか、どのような場合に、どのような理由で問題なのか
- 他の概念との関係
- 定義意外に議論すべきもの
- 議論の目的
- ほか

所感：企画作り・運営は緩かったがその分意外な出会いの面白さ・意義があった

インターネットの分断について（内容）

- ドメイン名システムなどの複数化、トラフィックの遮断、その他技術面での分断、低レイヤーでの分断
- コンテンツの検閲など
- Free and Open Internetからの逸脱は全て分断（戦争や対テロ戦争、暴動などに際しての遮断、監視などは？）
- 情報の自由な流通からの逸脱は全て分断（プライバシー、セキュリティ、著作権、営業秘密、違法な言論、「キャンセルカルチャー」、フィルターバブル、プラットフォームによるモデレーション、未成年者保護のためのフィルタリング、などは？）
- 既に分断が起きていると主張すると、「なら問題ではないのだろう」といった容認派を増やすので望ましくないのでは、という意見。起きてはいけない分断は何か？
- 分断への解決策は何か？問題のある分断を特定し、それに議論を集中するべきでは

グローバル知識コモンズについて（セッション概要）

参加したセッション：TH #134 The Digital Knowledge Commons: a Global Public Good? 知人の依頼により参加／前年に欧州ででの非公開会合の続き

<https://intgovforum.org/en/content/igf-2023-town-hall-134-the-digital-knowledge-commons-a-global-public-good>

報告：同上

文字起こし：なし

動画：https://www.youtube.com/watch?v=j5_Pyo3FrOY

所感：異なる文脈の合流の試みだった

グローバル知識コモンズについて（内容）

- グローバル公共財の考え方がUNESCOの教育の未来についての議論で重要視されている 教育・文化・イノベーションにも重要なインプット
 - 具体的な議論・施策は、ITシステムやソフトウェアに偏りがち。
 - オープンに利用できる知的な資源を充実させ、可用性を向上させる取り組みは教育、科学、文化などの多様な分野にあるが考慮が不十分。
 - グローバル公共財としての知識コモンズの可能性やそれを支えるための課題は何か？
- ⇒著作権は高リスク。プラットフォーム規制を意識し過ぎたネット規制も不適合なことがある。

IGFの役割について（合意形成の土壌づくり）

- ・信頼関係の構築、基本知識の共有、用語の定義すり合わせ、異なる文脈の議論の融合、利害関係の学習・連携の模索など⇒国際的なガバナンスの意思決定の土壌づくりのような役割を担えているのではないか
- ・議論・交流の場を設けるための「投資」が必要だが、「投資」をしたものだけがその恩恵に浴するわけではなく、幅広く様々な者が恩恵を得る。⇒公共財的なものではないか
- ・オープンさを重視しつつ国連が推進することには意義があるのでは
- ・重要な決定の際には、テクニカルに厳密な議論、詳細な交渉、公正なプロセスの設計運用などが必要になる。これらは信頼関係や基本知識の共有、用語の定義の共有などの良好な土壌があることで効率性が大いに増す
 - ・近年の民主主義の危機の裏返しのようなところがある。
- ・On the recordとOff the recordの使い分けが合意形成に重要だと考える時のオフ部分をIGFがかなり助けている。

※2013年Innovation Nippon報告書で書いたIGFのマルチステークホルダー主義についての評価の延長・拡張（『パーソナルデータ保護分野におけるマルチ・ステークホルダー・プロセスの役割と設計』（Innovation Nippon 研究会報告書）http://innovation-nippon.jp/reports/2013StudyReport_MSHP.pdf

IGFの役割について（パブリックコメント的な機会）

- ・ 様々な意思決定に際して多様なステークホルダーが参加する議論をする意義や有効性が高いことがある
- ・ Creative Commonsでもそのニーズがある、G7 Hiroshima processに向けた準備での活用は好例では
- ・ IGFには多様な人が来るので、そのようなプロセスに活用するのに適当
- ・ 国際的なインターネットガバナンスの課題は多くの組織が取り組んでいて、IGFの専権事項ではないが、IGFは多くの他組織の便乗を許容する懐の深さがある（のでは？）

※2022年IGF報告会での飯田陽一さん発表にも通底する意見がある

<https://www.youtube.com/watch?v=74l3E6sN2BE>

その他IGFに関するコメント

- ・ 多様な人が一堂に会しているのととても便利
- ・ ライトニングトークで中継も録画もないところですのでいい話があった（某国で情報戦を担っている人が実際何をやっているかを話すなど）
- ・ 隣に座った人がすごく面白い人だった
- ・ ハイレベルセッションという名称が（対等な立場を前提とするはずの）IGFの精神に反しているのではないか
- ・ 充実した会議をホストしてくれてありがとう
- ・ 15年ぶりぐらいの再会、どこで会ったか互いに覚えていない知り合いとの再会もあれば、知らない人からの挨拶もある。IGFは国際学会に比べ後者が多い印象
- ・ 著作権、通信インフラ、ICTと途上国開発援助、オープンデータ、AI、メタバース、など異なる文脈で関わった人／名前を見かけた人がいる
- ・ 本務の合間を縫って時間を作る関係上、入念な準備・十分な参加ができないこともある。ワークライフバランスがとれていない度合いの高い国には特に起こりがちな課題では。（特に市民セクター）

本資料のライセンス

本資料のライセンス : CC BY 4.0 国際ライセンス<<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>>

作者名 : 渡辺智暁

なお、著作権表示, 無保証を参照する表示, 従前の改変点についての表示はありません。

そこで、この資料を一部改変の上利用する際には、例えば次のような表記でライセンスの要求事項を満たせると考えられます。

渡辺智暁による資料を一部改変の上利用。

元資料のライセンス : CC BY 4.0 国際ライセンス
<<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>>

元資料のURL :

https://docs.google.com/presentation/d/1V8x8ZID2GjA1G_Ue3KfehrwXzQ2oZc12VrhKqTsXNko